



札幌市医師会
さかいの小児科

境 野 環 樹

夏がやってきた。東日本医科学学生総合体育大会(東医体)の季節だ。数年前、30年ぶりに軽井沢を訪れた。ソフトテニス部の大会に、部活動をご指導なさっている恩師ご夫妻をお連れし、応援するためだ。

新設医大だった、母校、旭川医科大学の(旧)軟式庭球部は、愛好会から発し、1982年、第25回東医体で初出場を果たした。大会は、コートの確保の点から、軽井沢で開催される。予選リーグを突破するまで、5~6年はかかった。現在は、男子、女子とも団体戦優勝の実績がある強豪校だ。当時、小樽から新潟へフェリーで渡り、新潟-軽井沢間は鉄道で移動した。途中、横川駅で「峠の釜めし」を求めた。新幹線が通った現在も、軽井沢の移動手段として自動車は必須で、フェリーを利用するという。

テニスコートがある軽井沢風越公園は、長野五輪のカーリング会場になり、拡充が図られていた。サーフェスはオムニコートに変わっていたが、傍に立つと、不思議と往時の心持ちになった。気がつく、先生はOBから贈られたテニスウェアに身を包み、コート内で学生に指示をお出しになっていた。休憩を取りながら、先生は終日コートの内、先生の令夫人と我々夫婦は外から応援した。学生たちは、礼儀正しく、丁寧に対応してくれた。一方で、乱打の際やラリーが決着するごとの応援合戦も盛んで驚いた。また、各校のウェアは色彩豊かで、頭髮を赤、黄、紫、緑など、いわゆる「東医体ヘア」に染め、夏を謳歌していた。試合が終わると、黒に染め戻し、卒業臨床研修施設の試験、面接に向かうという。

決勝トーナメントの大事な一戦に、先生は、朝早くからコンビニの軽食を手にコートにお入りになった。せっかくの軽井沢、先生をお送りして別行動を取ることにした。軽井沢は、明治期に来日した宣教師たちの避暑地として発展した。旧軽井沢銀座、苔の絨毯とカラマツ林の中に佇む別荘、上皇、上皇后両陛下のロマンスの舞台となった軽井沢会テニスコート、軽井沢ユニオンチャーチなど、予選落ちし時間があつた当時を思い出しながら訪れた。

数日の滞在中、夜はオーベルジュで食事をし、ソニーの故・大賀典雄氏が私財を投じた軽井沢大賀ホールでコンサートを聴いた。また、近隣のワイナリーを訪ね、併設のレストランでランチも堪能した。

先生が「テニスを通して医療人教育を」をお続けになって40年。その一端を改めて認識した再訪だった。



岩内古宇郡医師会
いわない眼科クリニック

寺 山 亜希子

死語でしょうか、分からない世代の方は辞書で(これも死語かも)、スマホでググってみてください。皆さんはどう過ごしているのでしょうか。

5時になんて仕事を終えている先生はいないと思いますが、仕事終わりの楽しみはありますか? 毎日の仕事で疲れてしまって、平日なんて、帰って、ご飯を食べて、お風呂に入って、明日の診療、手術に向けて、体調を整えるのに精一杯でしょうか。今時期だと週末のゴルフのために打ちっぱなしに行くことが多いかもしれません。ウィンドウショッピング、デパ地下のお惣菜やデザート、外食、映画、習い事、スポーツジム、本屋さんでぶらり、私の大好きなマッサージなど都会では選択肢がたくさんあり、実行しようと思えばすぐできてしまう、うらやましい限りです。その日のストレスをその日のうちに解消することも場合によっては可能でしょう。

限られた環境(岩内)でできることは、ゲオでビデオ・DVDを借りて観る、歌屋でカラオケ、町営プールでウォーキング(泳ぐことができないので)、ゴルフの打ちっぱなし、散歩をする、パチンコ・パチスロ(車で5分以内に2件、10分以内に1件計3件もある)などでしょうか。気軽にできるおしゃべりの相手やごはんの友も近くにはいません。人の目もあるので、プールやパチンコ・パチスロは却下、他は好きではないことやできないことなので却下、私のアフターファイブはここではほぼ選択肢がなく、都会でなければ成り立たない...?? 仕事後はストレス解消できず、日々ストレスが溜まっているような気もしています。同じような環境の先生方、どのようなアフターファイブを過ごしていますか。

余市まで高速道路ができて、実際札幌から1時間半強で来ることができて楽になったという声を聞くと、高速道路が共和町までできたり、新幹線ができると札幌から通勤も可能になったり、毎週週末に札幌へ行くことができるようになったり、私のアフターファイブ、週末も充実し、輝かしい??ものになるに違いないと思います。